



バリアフリー推進レポート



小学生を対象に路面電車でバリアフリー教室を開催！

中国運輸局では、「障害の社会モデル」※1「心のバリアフリー」※2の啓発とその理解を深めることを目的として、バリアフリー教室や各種啓発活動を継続的に実施しています。

このたびは**広島電鉄株式会社本社ビル・千田車庫**において、「障害の社会モデル」や「心のバリアフリー」に対する理解促進、公共交通の利用促進を目的として、広島市立竹屋小学校5年生を対象に、バリアフリー教室を開催いたしました。

また、当日は、NHK広島放送局から取材があり、本教室を取り上げていただきました。

※1 「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、とする考え方。

※2 全ての人々が、お年寄りや障害者等の立場を相互に理解しようと相手の気持ちになって考え、コミュニケーションをとり、行動し、支え合うこと。

バリアフリー教室

【開催概要】

- 日 時：令和6年1月16日(火)9:30～12:00
- 場 所：広島電鉄株式会社本社ビル・千田車庫
- 参加者：広島市立竹屋小学校 5年生 55名
- 主 催：国土交通省中国運輸局
- 協 力：広島電鉄株式会社
広島市立竹屋小学校 バリアフリープロモーター 徳政 宏一 氏

○内 容：

- (1)バリアフリークイズ
- (2)バリアフリープロモーターによる講話
～心のバリアフリー・障害の社会モデルについて～
講師：徳政 宏一氏
(NPO法人日本頸髄損傷LifeNet理事長)
- (2)路面電車の乗り方教室（超低床車両で実施）
 - ・BF設備説明（スロープ、優先席等）
 - ・乗降の仕方（全扉乗降、子供料金等）
 - ・当事者を見かけたときの対応の仕方
- (3)高齢者・車椅子体験（超低床車両で実施）
- (4)車庫見学（路面電車の説明等）



超低床車両で教室を実施
5200形 グリーンムーバーエイペックス

《教室の様子》



①バリアフリークイズ



②バリアフリープロモーターによる講話



③路面電車の乗り方教室



④高齢者疑似体験装具による体験



④車椅子を用いた乗降体験



⑤車庫見学



バリアフリープロモーターの講話

(一部紹介)

- ・高齢者や障害者などに対する壁を取り除くことが社会の責任と義務であること。
- ・みんなでともに暮らしていくこと、いろんな人がいると
いうことを相互に理解し、それを当たり前と思うこと。

《児童からの感想》

(バリアフリークイズについて)

- クイズをすることで、バリアフリーについてやってはいけないことや、マークなどの意味をたくさん詳しく知ることができた。
- バリアフリークイズをして、いろんなマークの問題で、ヘルプマークが乗り物の中にはられていた。

(バリアフリープロモーターによる講話について)

- 「バリアフリー」の事や色々な事が分かって、これから困っている人をたすけたりしようと思いました。
- いつもの生活があたりまえじゃないことに気がついた。
- たまにくるまいすを見たり、少し乗ったりすることがあり、ずっとすわっていられるから楽なんだと思っていたけれど、徳政さんは自分のくるまいすを乗り物ではなく「足」と表現していたので体の動かない、自由にできないことは本当はすごく大変なことなんだと感じた。

(車椅子・高齢者体験について)

- お年寄りの人たちはひざがうまくまがらず、私の暮らしている世界とはぜんぜんちがうと感じてとてもびっくりしました。
- 高齢者の人の手や足が思うように動かず、視野までせまくなってしまふのは体験してとても大変だった。
- 車椅子に乗って、初めは楽なのだと思っていたけれど、いざ乗ってみると色々大変なことに気づいた。
- 車椅子はとても不自由で少しこわかったけど、車椅子の人はこんなに苦労していることを知りました。
- 車椅子で路面電車に乗るためにはヘルパーの人などに助けをもらいながらコミュニケーションをとって乗ることが大切だと分かりました。

(路面電車について)

- 車両一つ一つに思いがこめられているなと思いました。
- 車椅子のひとのために電車にもいろいろな工夫があることが分かりました。

(全体を通して)

- 今後は車椅子の人で困っている人がいたら今日習ったことをいかして積極的に助けていきたいです。
- 家族にこのことを話したり、今後困っている方がいれば今日学んだことを生かしていきたい。
- 今後は車椅子をのっている人や耳がきこえない人や目が見えない人とかに席をゆずってルールを守ろうと思いました。